

10月5日のレッスン

脅かされる神の預言者

キー・ヴァース"それゆえ、今、あなたがたの道と
行いを改め、あなたがたの神、主の御声に従いなさい。
"そうすれば、主はあなたがたに告げられた悪
を悔い改めてくださる。

エレミヤ26:13

選ばれた聖句

エレミヤ1:6-10; 26:8-15

権力に真実を語る」という言葉は、20世紀半ばの公民権運動や反戦運動で脚光を浴びた。しかし、「権力に真実を語る」という概念は、たとえそれが困難なことであっても、また危険を伴うことであっても、権力に対して発言することを奨励するものであり、何千年も前から存在している。この概念は聖書にも登場し、イエスを死刑に処する権限を持つポンテオ・ピラトに対するイエスの返答ほど力強いものはないだろう。ピラトがイエスに "あなたはユダヤ人の王なのか?"と尋ねると、イエスはこう答えた。

もし、わたしの国がこの世のものであったなら、わたしのしもべたちは、わたしがユダヤ人に引き渡されないように戦ったであろう。ピラトは彼に言った、「それでは、あなたは王なのか」。イエスは答えられた。わたしが世に生まれたのは、このためであり、真理をあかしするためである」。ヨハネ

18:33,36,37

今日のレッスンでは、預言者エレミヤの生涯に見られる「権力に真実を語る」もう一つの例を取り上げる。若くして預言者として召されたエレミヤは、青年と呼ばれたにもかかわらず、ユダの人々に本当に預言することをエホバに保証された。わたしがあなたを遣わす者のところへ行き、わたしが命じることを何でも話しなさい。見よ、わたしは、わたしの言葉をあなたの口に置いた。"見よ、わたしは今日、あなたを国々の上、王国の上に置き、抜き取り、打ち壊し、滅ぼし、打ち倒し、建て、植える者とした。エレミヤ1:7,9,10

聖書全体を通して、イスラエルがエホバによって遣わされた預言者を拒絶し、場合によっては殺すというパターンが見られる。悔い改めを求めるメッセージ、神の裁きの警告、偽善の暴露、偽りの正義、民衆の信念や行動との矛盾は、民衆がエホバの選んだ使者を脅すのに十分な挑発だった。

エレミヤがエルサレムの町とイスラエルの神殿に対して預言したとき、「祭司と預言者たちは、諸侯とすべての民に向かって言った。エレミヤは答えた。しかし、もしわたしを死刑にするなら、あなたがたは必ず罪のない血を自分たちの上にも、この町の上にも流すことになる。それにもかかわらず、シャファンの子アヒカムはエレミヤを支持したので、彼は死刑に処せられるために人々に引き渡されることはなかった」。エレミヤ**26:11,14,15,24**

エレミヤの「権力に真実を語る」という使命の模範が、私たち一人一人にとって、人気がないと思われるときでも自信を持って福音を宣べ伝える励ましとなりますように。私たちのメッセージは、イエスが個人的に伝えてくださったものです：「だから行って、あらゆる国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によってバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい：わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。」**マタイ28:19,20**